

Enterprise Vault™

Notes ユーザー用マニュアル

12.3

Enterprise Vault™: Notes ユーザー用マニュアル

最終更新日: 2018-02-08。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

目次

第 1 章	Veritas Enterprise Vault の概要	4
	Veritas Enterprise Vault および Notes メールデータベースについて	4
	Notes の Enterprise Vault コマンド	6
	Notes の Enterprise Vault アイコン	7
	アーカイブ済みアイテムの保持について	7
第 2 章	アーカイブ済みアイテムの操作	8
	アーカイブ済みアイテムの表示	8
	アーカイブ済みアイテムへの返信と転送	9
	手動によるアイテムの格納	9
	Enterprise Vault のアーカイブ操作の取り消し	9
	アーカイブ済みアイテムの復元	10
	アーカイブ済みアイテムの検索	10
	アーカイブ済みアイテムの削除	11
第 3 章	Enterprise Vault を使ったオフラインでの作業	12
	ボルトキャッシュの設定	12
	「ボルトキャッシュ」へのアイテムの手動ダウンロード	14

Veritas Enterprise Vault の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Enterprise Vault および Notes メールデータベースについて](#)
- [Notes の Enterprise Vault コマンド](#)
- [Notes の Enterprise Vault アイコン](#)
- [アーカイブ済みアイテムの保持について](#)

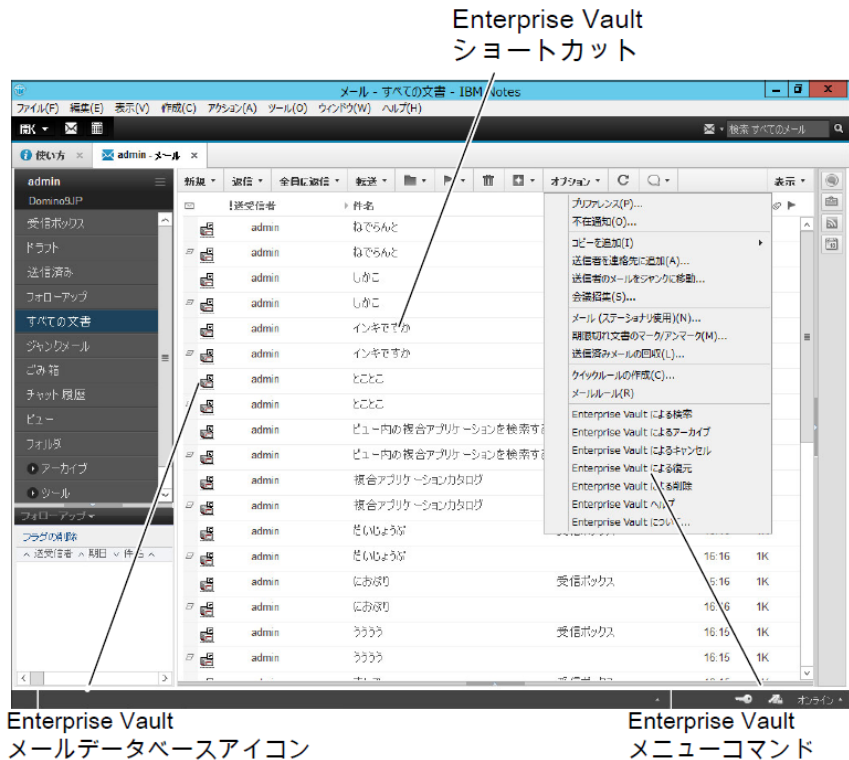
Veritas Enterprise Vault および Notes メールデータベースについて

Enterprise Vault は Notes メールデータベース内のフォルダにあるアイテムを、「ボルト」と呼ばれるストレージ領域に自動的に移動します。この処理は、アーカイブと呼ばれます。Enterprise Vault では、アーカイブは自動的に実行され、通常は混雑していない時間に行われます。

Enterprise Vault でアイテムをアーカイブした後も、Notes でこれらを使うことができます。ほとんど管理者は、アーカイブされた各アイテムへのショートカットを自分のメールデータベースに配置するように Enterprise Vault を設定します。ショートカットでメールフォルダにあるアイテムが置き換えられるため、アーカイブ済みのアイテムにすばやくアクセスできるようになります。

例えば、[図 1-1](#)は、アーカイブ済みアイテムへの複数のショートカットを含むメールデータベースを示しています。

図 1-1 Notes の Enterprise Vault 機能



ショートカットは元のアイテムのように表示され、同じように機能します。このため、ショートカットからの電子メールの開封、電子メールの転送と返信、別のフォルダへのコピーまたは移動を行うことができます。ショートカットをダブルクリックすると元のアイテムの内容を表示できます。

アーカイブは自動的に行われますが、管理者が、次のいずれかまたは両方を選択できるように **Enterprise Vault** を設定している場合があります。

- いつでもボルトにアイテムを格納できる。アイテムを格納すると、**Enterprise Vault** はそのアイテムをアーカイブ済みアイテムとしてボルトに追加します。格納したアイテムは他のアーカイブ済みアイテムと同じように扱われます。
- アーカイブ済みアイテムの復元とは、アーカイブ済みアイテムを元の形式でメールデータベースに移動またはコピーすることです。転送、返信、その他の処理を実行するためにアーカイブ済みアイテムを復元する必要はありません。

通常、アイテムはメールデータベース内のすべてのフォルダ（ごみ箱フォルダ以外）からアーカイブされます。**Enterprise Vault** ではごみ箱フォルダはアーカイブされないため、このフォルダは定期的に空にする必要があります。

オフライン作業でローカルメールレプリカを使う場合、Enterprise Vault はオンラインボルトに加えて「Vault Cache」データベースもローカルで作成できます。ローカルメールレプリカのショートカットをダブルクリックして、関連付けされたアーカイブ済みアイテムを「Vault Cache」からフェッチできます。

Notes の Enterprise Vault コマンド

管理者の Enterprise Vault の設定方法によって、次のコマンドが[ツール]メニューまたは[詳細]メニューで利用できます。

表 1-1 Notes の Enterprise Vault コマンド



コマンド	説明
Enterprise Vault Search	利用可能なボルト内のアーカイブ済みアイテムを検索します。 p.10 の「 アーカイブ済みアイテムの検索 」を参照してください。
Enterprise Vault によるアーカイブ	Enterprise Vault が次回メールデータベースでアーカイブ操作を行う場合、選択したアイテムをアーカイブするように指示します。 p.9 の「 手動によるアイテムの格納 」を参照してください。
Enterprise Vault による復元	選択した Enterprise Vault ショートカットに関連付けされているアイテムを復元します。 p.10 の「 アーカイブ済みアイテムの復元 」を参照してください。
Enterprise Vault による削除	アーカイブ済みアイテムを削除します。 p.11 の「 アーカイブ済みアイテムの削除 」を参照してください。
Enterprise Vault によるキャンセル	アイテムをボルトにアーカイブ処理中であっても、Enterprise Vault を停止できます。 p.9 の「 Enterprise Vault のアーカイブ操作の取り消し 」を参照してください。
Enterprise Vault キャッシュオプション	Notes をオフラインで使っている場合もアーカイブされたアイテムにアクセスできるよう、必要に応じて Enterprise Vault を設定できます。 p.12 の「 ボルトキャッシュの設定 」を参照してください。
ボルトキャッシュの更新	利用可能な場合は、ローカルメールレプリカからオフラインの「ボルトキャッシュ」データベースへのアイテムのダウンロードを開始します。 p.14 の「 「ボルトキャッシュ」へのアイテムの手動ダウンロード 」を参照してください。

コマンド	説明
Enterprise Vault Search の キャッシュ	利用可能な場合は、オフラインの「ボルトキャッシュ」内のアイテムを検索できます。

Notes の Enterprise Vault アイコン

Notes のメールデータベースにあるアイテムは次のアイコンでマーク付けされます。

表 1-2 Notes の Enterprise Vault アイコン

アイコン	説明
	アーカイブ済みアイテムへのショートカット。ショートカットをダブルクリックすると元のアイテムの内容を表示できます。アイテムの返信、転送や Notes で利用可能な他の処理を実行できます。または、ショートカットを選択してアイテムをメールボックスに復元することもできます。 管理者は、ショートカットをダブルクリックしたときに、Enterprise Vault によってアーカイブ済みアイテムの内容ではなくそのプロパティが表示されるように Enterprise Vault を設定している場合があります。
	アーカイブ保留。Enterprise Vault は、ボルトに格納されるアイテムにマーク付けを行います。

アーカイブ済みアイテムの保持について

Enterprise Vault では、アイテムをアーカイブするときに、保持カテゴリを自動的にアイテムに割り当てます。保持カテゴリでは、アイテムの保持期間を指定します。たとえば、管理者は Enterprise Vault がアイテムをアーカイブした日から 5 年間の保持期間を指定できます。または、2021 年 12 月 31 日など、特定の日付を期限にした保持期間を指定したり、アイテムを永続的に保持することを指定することもできます。

Enterprise Vault は、保持期間が終了したときにボルト内のアイテムを削除します。

管理者は、業務または法務などの各種のデータに対してさまざまな保持カテゴリを設定できます。

Enterprise Vault 検索を使用して、特定の保持カテゴリを指定しているボルトでアイテムを検索できます。管理者による Enterprise Vault の設定方法によっては、ボルトにアイテムを手動で格納するときにアイテムに割り当てる保持カテゴリを選択できる場合があります。Enterprise Vault 検索を使用して、ボルト内のアイテムに割り当てられている保持カテゴリを変更できる場合もあります。

アーカイブ済みアイテムの操作

この章では以下の項目について説明しています。

- [アーカイブ済みアイテムの表示](#)
- [アーカイブ済みアイテムへの返信と転送](#)
- [手動によるアイテムの格納](#)
- [Enterprise Vault のアーカイブ操作の取り消し](#)
- [アーカイブ済みアイテムの復元](#)
- [アーカイブ済みアイテムの検索](#)
- [アーカイブ済みアイテムの削除](#)

アーカイブ済みアイテムの表示

Enterprise Vault では、アイテムをアーカイブするときに、ショートカットをメールデータベースのアイテムに残しておくことができます。このショートカットは、ボルト内のアーカイブ済みアイテムへの直接リンクです。ショートカットからアイテムを簡単に表示または復元できます。

メモ: アーカイブ済みアイテムへのショートカットがない場合は、Enterprise Vault Search アプリケーションを使ってアイテムを見つけて開くことができます。

p.10 の「[アーカイブ済みアイテムの検索](#)」を参照してください。

アーカイブ済みアイテムを表示する方法

- ◆ ショートカットをダブルクリックして、その内容を適切なアプリケーションで開きます。

アーカイブ済みアイテムへの返信と転送

ショートカットからアーカイブ済みアイテムに返信または転送できます。**Notes** では、他のアイテムの返信または転送を行う場合とまったく同じように、元の形式でアーカイブ済みアイテムが開かれます。

手動によるアイテムの格納

Enterprise Vault はバックグラウンドで自動アーカイブを実行するため、ユーザーが操作する必要はありません。ただし、手動で 1 つ以上のアイテムをボルトに格納する必要があります。手動で格納できるのは、管理者がそれを許可するように **Enterprise Vault** を設定している場合です。

アイテムを手動で格納する方法

- 1 ボルトに格納するアイテムを 1 つ以上選択します。
- 2 設定方法に応じて、[ツール]メニューまたは[詳細]メニューの[Enterprise Vault によるアーカイブ]をクリックします。
- 3 [OK]をクリックして、選択したアイテムをボルトに格納することを確定します。

Enterprise Vault は、最初に次のアイコンによるマーク付けでアーカイブが保留中であることを示します。



Enterprise Vault は、次のアーカイブが実行されるまで、アイテムを完全にはアーカイブしません。次に **Enterprise Vault** は、次のアイコンでアイテムにマーク付けします。



Enterprise Vault のアーカイブ操作の取り消し

メールデータベース内のアイテムがアーカイブ保留状態の場合は、**Enterprise Vault** によるアーカイブを停止できます。ただし、**Enterprise Vault** によるアイテムのアーカイブは高速で行われるため、この操作を取り消すには素早く行う必要があります。

Enterprise Vault 操作を取り消す方法

- 1 Enterprise Vault によって処理が行われているアイテムを選択します。
Enterprise Vault が現在処理していないアイテムを含めることができます。Enterprise Vault は、このようなアイテムを無視します。
- 2 設定に応じて、[ツール]メニューまたは[詳細]メニューの[Enterprise Vault によるキャンセル]をクリックします。

アーカイブ済みアイテムの復元

アーカイブアイテムは、そのショートカットをダブルクリックすることで簡単に表示できるため、通常、メールデータベースに復元する必要はありません。アイテムを復元すると、そのアイテムは元の形式で復元されます。たとえば、復元したアイテムがメールメッセージの場合は、通常どおりに返信もできます。

復元するアイテムへのショートカットがない場合は、Enterprise Vault Search アプリケーションを使ってアイテムを検索して復元します。

Enterprise Vault ショートカットからアーカイブ済みアイテムを復元する方法

- 1 メールデータベースで、復元するアイテムへのショートカットを選択します。Notes の通常の方法を使って、1 つまたは複数のショートカットを選択します。ショートカット以外の任意のアイテムを含めることができます。Enterprise Vault ではこれらのアイテムは無視されます。
- 2 設定方法に応じて、[ツール]メニューまたは[詳細]メニューの[Enterprise Vault 復元]をクリックします。
- 3 [OK]をクリックして、アイテムをメールデータベースに復元することを確定します。
ショートカットを使って復元するアイテムは、常に元のフォルダ (ショートカットが存在するフォルダ) に復元されます。

アーカイブ済みアイテムの検索

アーカイブ済みアイテムへの Enterprise Vault ショートカットがある場合は、そのショートカットを使って簡単にアイテムを表示したり復元したりすることができます。ただし、ショートカットを使っていない場合は、Enterprise Vault の検索機能を使って、アイテムを検索して開くことができます。

アーカイブ済みアイテムを検索する方法

- 1 設定方法に応じて、[ツール]メニューまたは[詳細]メニューの[Enterprise Vault Search]をクリックします。
- 2 ログオンボックスに **Notes** ユーザー名、**Domino Web**/インターネットパスワード、および **Domino** のドメインを入力して、[OK]をクリックします。
- 3 検索基準を入力してから、検索を開始します。

アーカイブ済みアイテムの削除

ユーザーによるボルトのアイテムの削除を **Enterprise Vault** 管理者が許可している場合は、次の方法でアイテムを削除できます。

ショートカットを使ってアーカイブ済みアイテムを削除する方法

- 1 削除するアーカイブ済みアイテムへのショートカットを選択します。
ショートカット以外の任意のアイテムを含めることができます。**Enterprise Vault** ではこれらのアイテムは無視されます。
- 2 設定方法に応じて、ツールメニューまたは詳細メニューの[Enterprise Vault による削除]をクリックします。

ショートカットから開いたアイテムを削除する方法

- 1 アイテムを開いたウィンドウのツールバーで[削除]をクリックします。
- 2 メッセージが表示された場合は、ショートカットのみを削除するか、ショートカットとアーカイブ済みアイテムの両方を削除するかを選択します。
ショートカットだけを削除すれば、アイテムはボルトに残り、後で検索を実行してそれを取り込むことができます。

Enterprise Vault を使った オフラインでの作業

この章では以下の項目について説明しています。

- [ボルトキャッシュの設定](#)
- [「ボルトキャッシュ」へのアイテムの手動ダウンロード](#)

ボルトキャッシュの設定

Enterprise Vault では、メールデータベースからアイテムをアーカイブするとき、通常、アーカイブ済みアイテムに直接リンクするショートカットが残ります。アイテムをショートカットに置き換えることで、メールデータベースの空き容量を節約できます。ただし、ローカルメールレプリカで作業していて、ネットワークに接続していない場合は、ショートカットをダブルクリックしても関連付けられたアーカイブ済みアイテムを開くことはできません。

Enterprise Vault では、オフラインのボルトキャッシュにアーカイブ済みアイテムのコピーを保持することで、この問題を解決できます。ユーザーがオフラインの場合、ローカルメールレプリカのショートカットをダブルクリックすることで、「ボルトキャッシュ」のアーカイブ済みアイテムを取り込むことができます。

管理者は、「ボルトキャッシュ」を次の3つの方法のうちいずれかの方法で構成できます。

- 「ボルトキャッシュ」をユーザー自身が設定するオプションを使用できるようにする。
- 「ボルトキャッシュ」をユーザーの操作を必要とせずに自動的に設定できるようにする。
- 「ボルトキャッシュ」を無効にする。

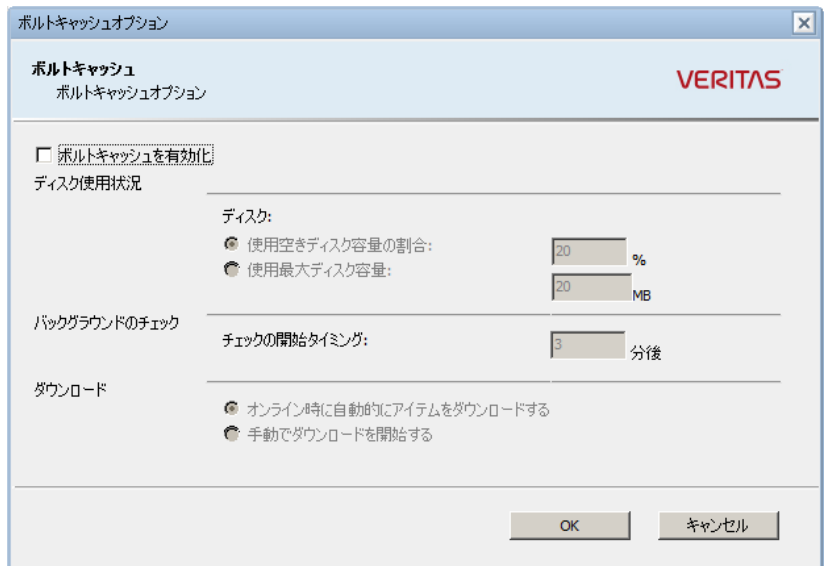
「ボルトキャッシュ」内で利用できないアーカイブ済みアイテムを開こうとすると、ネットワークに接続されていると、Enterprise Vault により、そのアイテムはオンラインボルトからダウンロードされ、表示されます。ただし、アーカイブ済みアイテムを開こうとすると、ネットワークから切断されていると、Enterprise Vault では、次回オンラインになったときにアイテムをダウンロードするように求めるメッセージが表示されます。

管理者が「ボルトキャッシュ」を自動的に有効にするように選択していない場合、ユーザーは次のように設定できます。

ボルトキャッシュを設定する方法

- 1 Notes を開始します。
- 2 メールデータベースを開きます。
- 3 次の操作をまだ行っていない場合は行います。これらのアクティビティの実行方法については、**Notes** のヘルプシステムを参照してください。
 - メールデータベースのオフラインコピー (レプリカ) を作成します。
 - メールデータベースのレプリカを開きます。
 - スケジュール設定されたローカルエージェントを有効化することにより、**Notes** を起動したときに、**Enterprise Vault** でエージェントを実行してアイテムをボルトキャッシュにダウンロードできます。
- 4 設定方法に応じて、[ツール]メニューまたは[詳細]メニューの[Enterprise Vault キャッシュオプション]をクリックします。

[ボルトキャッシュオプション]ダイアログボックスが表示されます。



- 5 [ボルトキャッシュを有効化]を選択します。

6 残りのオプションを設定して、[OK]をクリックします。

ディスク使用状況	「ボルトキャッシュ」に利用可能なディスクの空き容量を制御します。空き容量がない場合は、Enterprise Vault によって「ボルトキャッシュ」内の最も古いアイテムが削除され、新しいアイテム用に空き容量が用意されます。必要に応じて利用可能な空き容量を修正できます。
バックグラウンドのチェック	Notes を起動してから、「ボルトキャッシュ」にダウンロードするアイテムが確認されるまで待機する分数を指定します。接続速度が遅い場合は、チェック処理が開始する前にメールを読めるように、この値を大きくすると便利です。
ダウンロード	「ボルトキャッシュ」を更新するために Enterprise Vault でダウンロードする必要があるアイテムがある場合、次回オンラインになったときにアイテムを自動的にダウンロードするかどうかを制御します。代わりに、手動でダウンロードを開始するように選択することもできます。

7 [開始]をクリックして、「ボルトキャッシュ」に追加するアイテムを検索します。

「ボルトキャッシュ」へのアイテムの手動ダウンロード

メールサーバーにネットワーク接続されているときに Enterprise Vault がアイテムを「ボルトキャッシュ」に自動的にダウンロードするように、管理者が設定している場合があります。自動チェックが有効になっていない場合、ローカルメールレプリカを使っているときに手動でボルトキャッシュを更新できます。

「ボルトキャッシュ」に手動でアイテムをダウンロードする方法

- 1 ローカルメールレプリカを開きます。
- 2 設定方法に応じて、[ツール]メニューまたは[詳細]メニューの[ボルトキャッシュの更新]をクリックします。